

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

安満地

第2号

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月10日（木）13:30～15:30、安満地集会所にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。



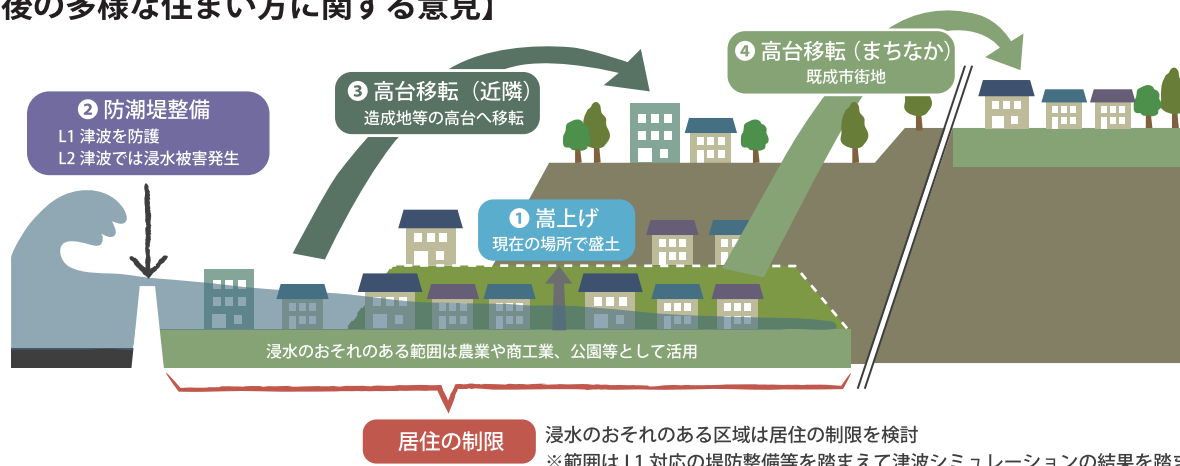
【地区としての復興の方向性】

- 港の機能は戻って欲しい
- 巻き網漁業の再建にはお金がかかる
- 網元さんがどうするかで、どうなるか分からない
- 戻ってこれるように応援せんといかん
- 地元に戻りたい
- 若い人と高齢の人では考え方が違う
- 家を建てる支援があったらいい

その他の意見

- 使用していないタンクやブイを片付けないと、家に当たって、家を壊したり、被害を大きくしそう
- トイレがあったらいい（災害用）
- 観光客用のトイレはお金を払ってもらおう

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



1 嵩上げ

- 現実的じゃ無い
- 土地もない
- うんと時間もかかる

2 防潮堤整備

- バスはきて欲しい
- 食料や日用品が買える場所が欲しい
- 家を建てる支援があったらいい

3 高台移転（近隣）

- 借金してまでは自分で家を建てれん

4 高台移転（まちなか）

- お年寄りの一人暮らしの人が多いので、子どもや知り合いのところに避難したまま帰ってこんかも

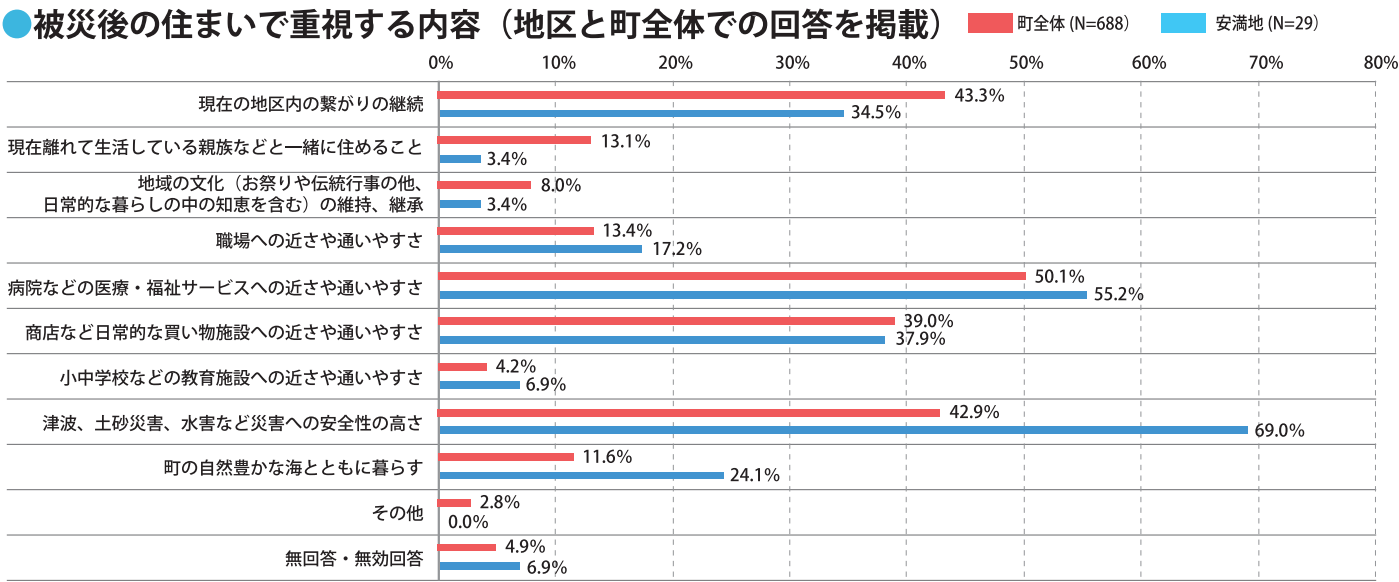
どっちか選べると良い

- 高台へ公営住宅を作って欲しい

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

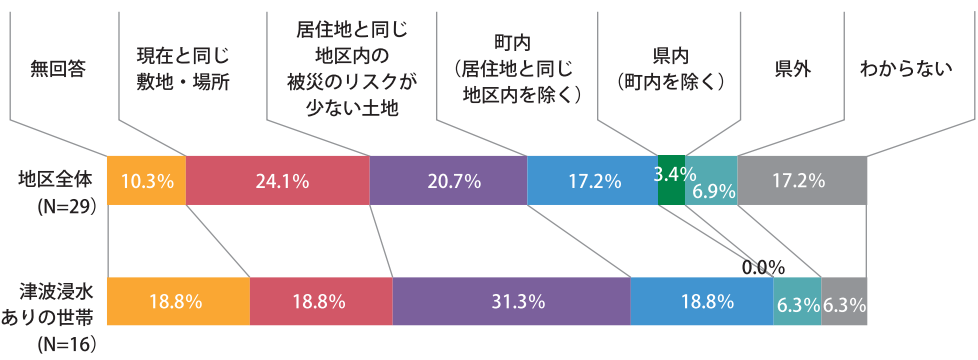
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



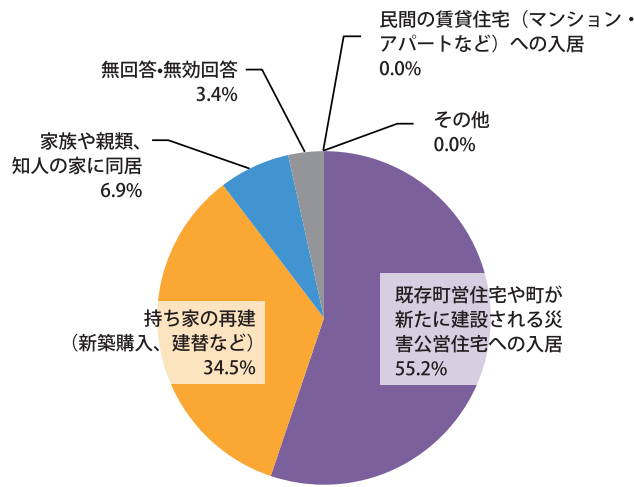
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。安満地地区では「津波、土砂災害、水害など災害への安全性の高さ」の 69.0% が最も多く、次いで「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 55.2% となっており、災害に対する危機感が現れる結果となった。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所については、安満地全体では「現在と同じ敷地・場所」が 24.1% と最も多く、次いで「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」20.7% となった。津波浸水の予想される世帯では「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」が 31.3% と最も多く、次いで「現在と同じ敷地・場所」、「町内（居住地と同じ地区内を除く）」が 18.8% となっている。

●復興の際の住まいの形態 (N=29)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 55.2% と最も高く、次いで「持ち家の再建」34.5% となっている。生活を再建する際に望ましい住まいの場所として「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」や「現在と同じ敷地・場所」の割合が高いため、新たに公営住宅を建設する際には安満地地区内への建設が望まれることが予想される。